

第5章 海洋哺乳類（ニシコククジラを除く）

5.1 はじめに

サハリンⅡプロジェクトの開発のための環境関連文書のレビューの際に、プロジェクトの利害関係者は国際的な標準様式の環境影響評価（EIA）のレビュー結果に基づき、数多くの懸念や確認が必要な事項についてまとめている。プロジェクトに関心を有する団体がコククジラ以外の海洋哺乳類について挙げた疑問点の概要を以下に示す。

- EIA補遺版の文章中で参照される地名を示す地図の提供
- プロジェクト活動に関する空間的範囲、観測実験、観測されたクジラの行動に関する記述および、その他、読者の解釈を容易にする関連データを表すための、それぞれの主な参照調査に関する要約情報
- トドに関する追加情報、特に冬期のアニワ湾周辺海域利用の可能性およびこの種に対するプロジェクト活動の潜在影響
- アカボウクジラに対するプロジェクト活動の騒音影響の評価
- 特にセミクジラとホッキョククジラに関する船舶衝突リスク

具体的には、この章では、第1章1.7節の「環境影響アセスメント第2巻、プラットフォーム、海底パイプラインおよびパイプラインの上陸地点（SEIC 2003）ー以下“EIA”ー」で提供された基本情報に対する追加詳細を提供し、サハリンⅡプロジェクト操業地域の周辺における海洋哺乳類の特徴、分布および保護状態について記述する。追加情報はサハリン島北東部とアニワ湾を対象とし、既存の、および最近発行されたレポートと、EIAの公表以降に使用可能となったモニタリング調査のデータから引用している。

専門調査を含む、海洋哺乳類の存在と分布に関するデータを提供している調査は1995年以来のプロジェクトによって実施されている。海洋哺乳類観測者（MMO）も訓練を受けており、全ての海洋活動中に実施される、進行中の観測および記録計画も存在する。

補完的な研究と評価に沿った調査からの情報は、海洋哺乳類に対するサハリンに開発の潜在的影響を減らすための、個別の影響緩和対策および操業手順を策定するために使用されてきた。

特に関連があるのは、SEICの委託を受けてLGL Limitedが実施した文献レビューであり、アニワ湾における海洋哺乳類の分布を詳述している（LGL, 2003）。

LGL報告の中で提供された要約情報および関連する文書やデータは、この補遺版の本章の後節にあり、過去にEIAの1.7節で詳述したように、海洋哺乳類分類の生物学的分類と種をもとに並べられている。サハリンⅡプロジェクト周辺の保護状態と海洋哺乳類の個体数に関する情報は、各章のはじめに示し

ている。本章の最後の表5.3は、サハリン島の海域に生息する海洋哺乳類のリストであり、既存情報の要約をまとめたものである。

図5.1にこの章に関する主な地理的位置の参照図を示す。



図5.1 サハリン島の主な地点と焦点ポイント